

いわや まぜがわ  
岩屋ダムが洪水調節機能を発揮し、馬瀬川水位を最大で1.33m低減

次の洪水に備えるための、事後放流(特別防災操作)を完了

岩屋ダム(独立行政法人水資源機構)では、西日本から東日本にかけて停滞する梅雨前線に伴う大雨による出水で防災操作(洪水調節)を実施しました。

令和2年6月30日~7月9日までの岩屋ダム地点の降水量は累計で627ミリ(時間最大38ミリ(6日4時、7日17時))を記録しました。この降雨により、岩屋ダム貯水池に流れ込む水の量(流入量)は、7月1日7時40分に洪水流量(毎秒300m<sup>3</sup>)に達したため防災操作(通算98回目)を開始しました。同日8時過ぎには洪水量以下に低減しましたが、7月6日15時30分には再び洪水流量を超過したため、再び防災操作(通算99回目)を行いました。7月8日7時30分には最大流入量毎秒987m<sup>3</sup>を記録し、このとき流入量の約7割にあたる毎秒約690m<sup>3</sup>をダムに貯留して、残り毎秒297m<sup>3</sup>を放流し、ダム下流の河川水位を低減させました。

これにより、馬瀬川東沓部地点の河川水位を約1.33メートル低下させたと推定されます。また、今週末には再び大雨が予想されているため、7月8日16時30分から下流河川の安全を確認しつつ岩屋ダムからの放流量を増量(特別防災操作)し、7月9日23時50分には洪水調節を行うための容量(5,000万m<sup>3</sup>)を再び確保しました。7月10日15時現在、さらに、発電事業者の協力を得て、容量確保のため事前放流を実施しています。

ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダムの放流量	同時刻におけるダム貯留量
7月8日 7時30分	毎秒 987m <sup>3</sup>	毎秒 297m <sup>3</sup>	毎秒 690m <sup>3</sup>

東沓部地点の河川水位最高水位となった時刻	同時刻における東沓部地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	ダムによる水位低減効果
7月8日 9時00分	5.40m	6.73m	1.33m

- ※ 東沓部地点：下呂市金山町東沓部乙鳥水管橋下流(岩屋ダムから約9.3km下流、飛騨川本川合流点から約7.5km上流の地点)
- ※ 防災操作とは、岩屋ダムに流れ込む馬瀬川の水が大雨によって毎秒300立方メートル以上に増加したとき、その水の一部を一時的に貯め込むことで、岩屋ダムから下流へ流す水の量を減らし、岩屋ダム下流の馬瀬川・飛騨川・木曾川の水位を低減させる操作。
- ※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査によって数値等が変わることがあります。

令和2年7月10日



独立行政法人水資源機構 いわや 岩屋ダム管理所

同時配信

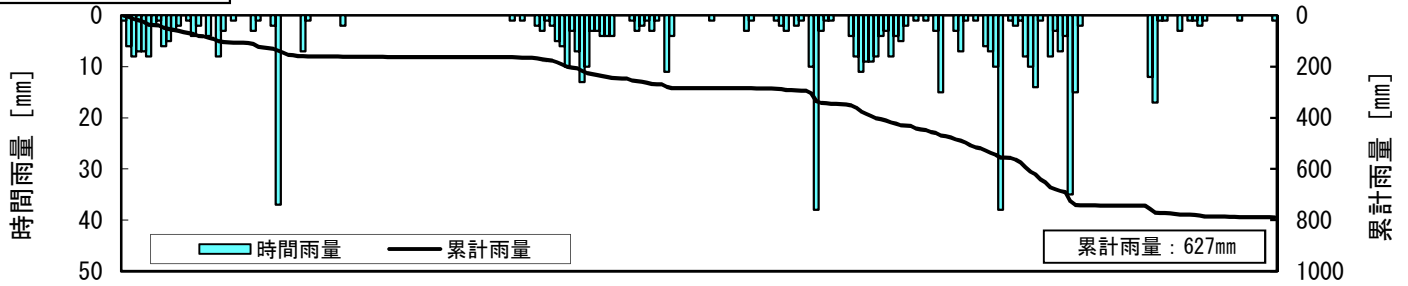
中日新聞社萩原通信局	朝日新聞社高山支局
岐阜新聞社下呂支局	毎日新聞社岐阜支局高山通信部
読売新聞社下呂通信部	シーシーエヌ株式会社

問い合わせ先

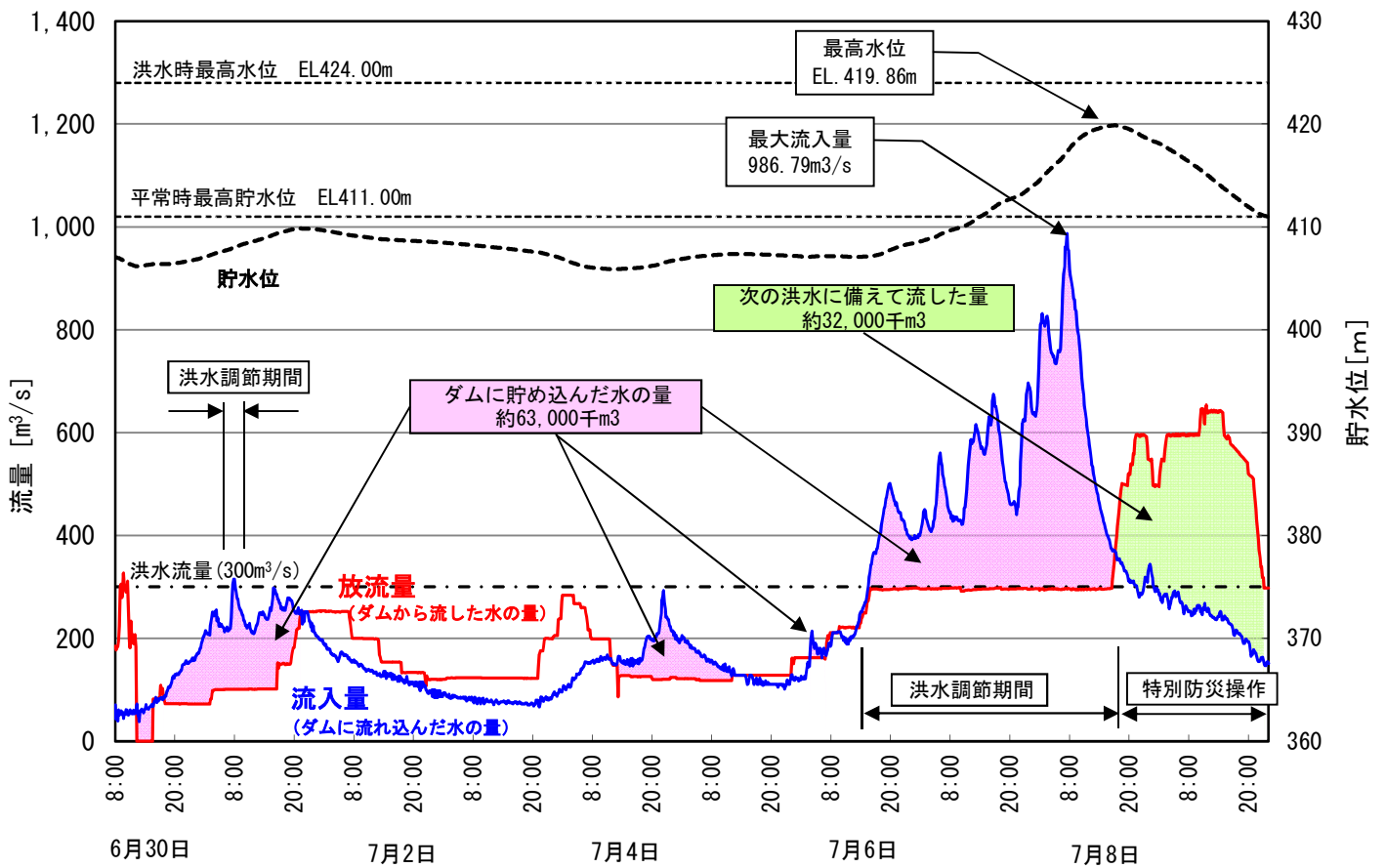
独立行政法人水資源機構 いわや 岩屋ダム管理所 所長代理 早川(はやかわ)  
電話：0576-35-2339(代表)

## 岩屋ダム防災操作図 [令和2年6月30日～7月9日 洪水]

### ダム地点降水量



### 岩屋ダムの状況



### 東沓部地点の河川水位

